

新潟県魚類目録補訂 (VII)

Further additions to "A list of the fishes collected in the Province of Echigo, including Sado Island" (VII)

本 間 義 治

Yoshiharu HONMA

(新潟大学理学部生物学教室)

(Department of Biology, Faculty of Science, Niigata University)

本報に追加掲載する新潟県産魚類は 20 種であり、これで著者によって新潟県水域に分布することが明らかにされた魚類は 501 種となった。しかし、著者以外の研究者によってもなお 10 余種の本県産魚類が断片的に報告されているが (FREEMAN, 1951; TOMIYAMA, 1952; MATSUBARA and OCHIAI, 1955; 大内・尾形, 1960 など), これらについては観察の機会がなく収録できなかったもので、今後にまちたい。

標本査定の機会を与えられた日本海区水産研究所の大内明枝官, 西村三郎技官, 新潟県立両津高等学校の矢田政治教諭, 新潟県佐渡郡畑野町立松ヶ崎中学校 (現佐渡郡相川中学校) 葛原正吾教諭, 同校元校長伊藤五平氏を始めとする御各位に、厚くお礼申し上げある。

Class Chondrichthyes

Family Sphyrnidae

1. *Sphyrna lewini* (GRIFFITH)

アカシュモクザメ T

産地: 佐渡両津湾 1959 年来, 定置網で漁獲された本属魚類を注意してみたところ, シロシュモクとアカシュモクの両種を認めた。佐渡両津高等学校所蔵 (Fig. 1)。

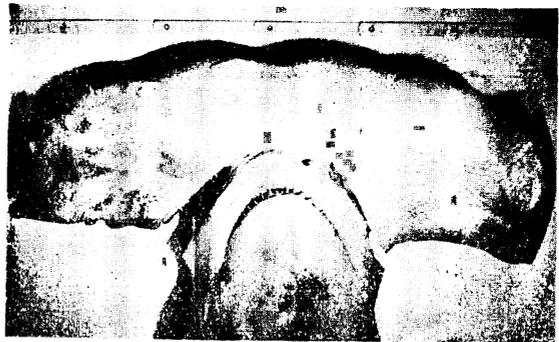


Fig. 1. Head of a *Sphyrna lewini* (GRIFFITH) taken from Ryotsu Bay, Sado Island.

Class Osteichthyes

Family Salmonidae

2. *Salvelinus malma* (WALBAUM) オシヨロコマ N

産地: 佐渡北西沖

日本海マス流網漁船の漁獲物に、カラフトマス, サクラマスにまじって極く少数みられる。

Family Cyprinidae

3. *Biwia zezera* (ISHIKAWA) ゼゼラ T

産地: 新潟市鳥屋野潟

本邦特産の淡水魚で、中国大陸にも対応種がないといわれている本種を、1959年12月26日に多数尾を採集した。これは、多分同瀉へ近年ビワ湖よりゲンゴロウブナを移殖したので、そのことに基因して増えたのであろう。著者所蔵。

Family Ophichthidae

4. *Muraenichthys gymnotus* BLEEKER ミミズアナゴ S

産地：佐渡松ヶ崎海岸

正確な採集記録が残されていないが、1960年3月から1961年8月までの間に採捕されたもので、全長 256.0 および 321.0 mm の 2 尾。背鰭は肛門より後方から始まり、背鰭と臀鰭はあるが、胸鰭はない。尾部は肉質であるが、短かく小さい尾鰭が認められる。肛門は鰓孔より著しく後位にあり、鰓孔は良く発達している。口裂は眼よりわずかに後方におよぶ。後鼻孔は上唇縁に開き、鼻管を形成している。鱗はない。体はきわめて細長く、全長 (256.0 mm) は体高の 51.2 倍に達する。

従来、日本海側からは未報告と思われ、本属のような南方系魚類が佐渡沿岸に生息することは、注目されてよいであろう。佐渡松ヶ崎中学校所蔵。

5. *Echelus uropterus* (TEMMINCK et SCHLEGEL) ヒレアナゴ T

産地：佐渡松ヶ崎および多田沖

1960年8月に1尾と1960年11月22日に2尾得られたもので、全長はそれぞれ 535.5、218.0 および 210.0 mm。佐渡松ヶ崎中学校所蔵。

Family Fistulariidae

6. *Fistularia villosa* KLUNZINGER アオヤガラ T

産地：佐渡両津湾

1959年中にとれた標本2尾で、正確な採集記録は付けられていない。佐渡両津高等学校所蔵。

Family Trachipteridae

7. *Trachipterus ishikawai* JORDAN et SNYDER サケガシラ S

産地：佐渡海峡を中心として、南は新潟県梶屋敷、北は山形県飛島にわたる。

1960年2月より1962年6月までの間に、新潟・山形両県の海上で捕えられたり、海岸へ打ちあげられたりした本種の記録13例を要約すると、次表のようになる (Table 1, Fig. 2)。

ほかに、1960年2月24日底曳網漁船によって佐渡海峡から *Regalecus russellii* (SHAW) ♀ が1尾捕えられている (NISHIMURA, 1960c)。最近2年間の厳冬季より初夏にかけて、これら

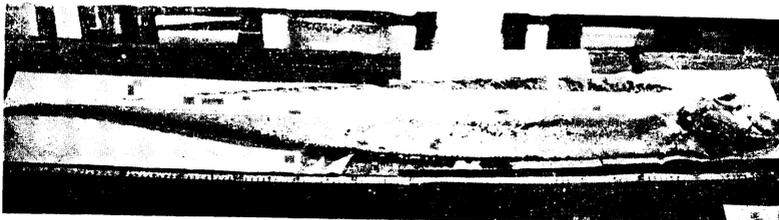


Fig. 2. *Trachipterus ishikawai* JORDAN et SNYDER taken from beach of Matsugasaki, Sado Island.

Table 1. Records of the deal-fish, *Trachipterus ishikawai* from Niigata and Yamagata Prefectures, Sea of Japan.

	Date of collection	Locality	Total length (cm)	Depth of body (cm)	Weight (g)	Remarks
A	Feb. 2, 1960	山形県飛島沖	150.0			イカ漁船 飛島小学校保存
B	Feb. 18, 1960	新群市青山海岸	180.0	30.0		漂着 本間義治保存
C	Jan. 30, 1961	新潟県西頸城郡 能生町	158.0	30.0	3.0	漂着
D	Feb. 21, 1961	新潟県西頸城郡 梶屋敷	117.0		4.4	漂着
E	Mar. 13, 1961	新潟県三島郡 寺泊町金山海岸	165.0	24.0		漂着 寺泊水族館保存
F	Mar. 16, 1961	新潟県佐渡郡 弾崎沖				マス流網 北水試おやしお丸
G	Mar. 27, 1961	新潟県佐渡郡 松ヶ崎海岸	151.2			漂着 松ヶ崎中学校保存
H	Apr. 30, 1961	新潟県西蒲原郡 巻町浦浜沖	145.0	20.0		マス建網 新潟日報 (1961 V 6)
I	May 23, 1961	山形県酒田市 小湊沖	150.0			杉原千代太私信
J	Late in May, 1961	新潟県中頸城郡 大潟町土底浜	120.0	20.0		新潟日報 (1961 V 29)
K	Early in Mar., 1962	新潟県糸魚川市 押上海岸	140.0		3.3	漂着 新潟日報 (1962 III 8)
L	Apr. 18, 1962	新潟県 関屋浜	150.0		5.0	漂着 新潟日報 (1962 IV 18)
M	May 3, 1962	新潟県糸魚川市 横町海岸	140.0		10.0	漂着 新潟日報 (1962 V 4)

両種がこのような多数尾得られたのは重要視されてよいであろう。西村 (1960b) も考察しているように、昨今の優勢な対馬暖流にのって、日本海の比較的深部をはこばれた両種が、冬季は暖水温を求めて表層近くに達する。そして冬季から初夏にわたる北西季節風を主とする大時化に見舞われ、沿岸に吹き寄せられたり、打ちあげられたりしたものであろう。

Family Zeidae

8. *Zenopsis nebulosa* (TEMMINCK et SCHLEGEL) カガミダイ S

産地：佐渡多田沖

1961年7月10日にとれた体長118.8mmのもの1尾。D. IX, 27; A. III, 26; V. I, 6; P. 12; 背鰭基底に13個、鰓孔と腹鰭間に3個、腹鰭と臀鰭間に8個、臀鰭基底に7個の棘状盤がある。頭部背面外廓は著しく凹形で背鰭棘状部と腹鰭の鰭膜は黒色。若魚のため、側線

の前半部の付近に灰黒色の小円点状斑紋が数個散在している (Fig. 3)。

従来、日本海側では富山湾まで分布することが知られていた。佐渡松ヶ崎中学校所蔵。

Family Lepidotidae

9. *Taractes platycephalus* MATSUBARA サガミマンザイウオ +S

産地：佐渡両津湾

正確な採集記録はわからないが、1959～1960年の冬季間に定置網でとれたもので、体長 280.0 mm のもの 1 尾。D. III, 29; A. II, 22; V. I, 5; P. 19; 鱗にはすべて棘または隆起線があり、尾柄部鱗はやや強い棘をもっている。下顎は突出し、頭部の背面外廓は両眼隔の直後より急峻となる (Fig. 4)。

稀な魚らしく、相模湾と朝鮮の Tongyong から採捕されているが、多分温水域に広く分布するものであろう。佐渡両津高等学校所蔵。

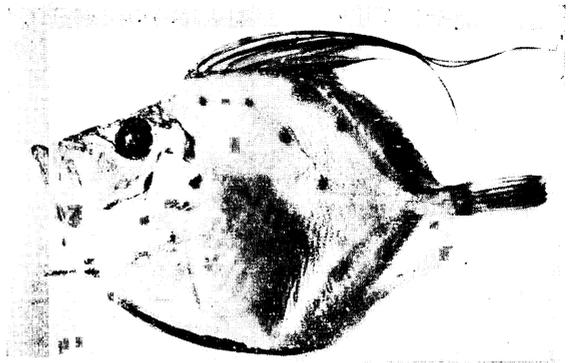


Fig. 3. Young of *Zenopsis nebulosa* (TEMMINCK et SCHLEGEL) taken from off Ohta, Sado Island. (length 118.8 mm)

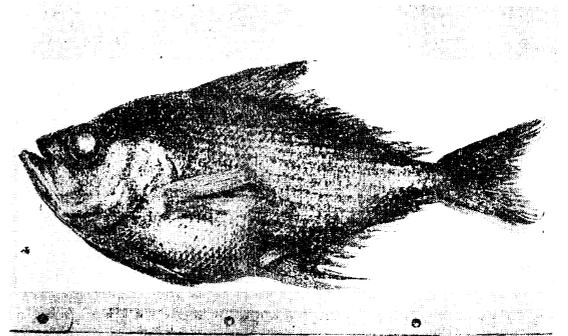


Fig. 4. *Taractes platycephalus* MATSUBARA taken from Ryotsu Bay, Sado Island.

Family Cebidichthyidae

10. *Zoarchias veneficus* JORDAN et SNYDER カズナギ +N

産地：山形県酒田港，新潟県西頸城郡能生町

1958年8月17日に、林賀信勝君によって酒田港北防波堤より採集された全長 79.8 mm のもの 1 尾，および 1959年6月21日に高田女子実業高等学校帆苧信夫教諭によって、能生町弁天島の磯より採集された全長 56.0 mm のもの 1 尾。D. XXXI, 77; A. I, 82; V. 0; P. 9; 体は細長く、著しく側扁し、後方はとがる。吻もとがり、両顎はほぼ同長。口は垂直形を示さないが大きく、口裂は眼窩をはるかに越え頂部中央に達する。左右の鰓膜の下部は前方に進まず、巾広く互いに癒合し、峽部を横切って巾広い褶襞を形成しているのので、峽部とは遊離している。側線はなく、頭部背面や体には皮質突起がない。尾柄がなく、背びれおよび臀びれは、尾びれと完全に癒合している。臀びれの基部は、背びれの XVIII 棘の下より始まり、背びれは胸びれ基底の上方より始まる。多数の小楕円鱗が皮膚下にうずまっているが、頭部にはない。背びれには強く短い棘条が発達しているが、後半は軟条よりなる。両顎、鋤骨、口蓋骨に狭歯帯があるが、臼歯はもたない。

体地色は淡黄褐色で、断続した不規則な暗褐色の網状模様があり、これは背びれ臀びれへも

侵入している。多分、本邦の沿岸に広く分布しているものであろう。杉原千代太氏ならびに著者所蔵。

Family Pholidae

11. *Alectrias alectrolophus benjamini* JORDAN et SNYDER ムシャギンボ N

産地：山形県酒田港

1958年8月17日に林賀信勝君によって捕えられた全長83.0mmのもの1尾。D. LVIII; A. 40; V. 0; P. 10; 背びれは棘状のみよりなり、尾柄は不明瞭で背びれと臀びれとは尾びれと鰭膜によって連なる。口蓋骨に歯はあるが、臼歯はなく、口は非垂直形で、下顎は上顎に含まれる。胸びれは短かく頭長の1/2に達せず、頭部における眼より後方の長さより短い。左右の鰓膜は癒合し、峡部の前部とのみ癒着し、後縁は遊離している。頭部背面正中線に、吻から項部にかけて良く発達した鳥冠状の皮膜がある。側線は痕跡的で、別々の開孔となり、体前部の背方にも孔よりなる第2の側線がある。小円鱗は、体の後部の皮下にばらばらになって埋没している。

北日本の沿岸一帯に生息しているものであろう。杉原千代太氏所蔵。

Family Gobiidae

12. *Acanthogobius lactipes* (HILGENDORF) アシシロハゼ T

産地：佐渡両津湾

この標本にも正確な採集記録が付せられていないが、両津高等学校に2尾保存されてある。本種が本県内に分布することは、すでに蒲原(1950)、黒田(1951)によって記されている。

Family Pomacentridae

13. *Abudefduf vaigiensis* (QUOY et GAIMARD) オヤビッチャ +S

産地：佐渡達者海岸および松ヶ崎海岸

1959年8月13日達者で新潟大学佐渡臨海実験所北見健彦氏によって拾得された体長48.5mmのもの1尾、および1960年9月29日に松ヶ崎で捕えられた体長80.0と94.0mmのもの2尾。D. XIII, 12; A. II, 12; V. I, 5; P. I, 18; 側線鱗数27~28枚; 第1鰓耙数8+17=25; 歯列数1; 眼前骨は無鱗であるが、眼下骨には1列の鱗がある。体側には、5条の黒色横帯がある。

本種は、日本海側においても、富山湾(片山, 1940)や山形県(杉原, 1944)からも報告されており、佐渡の松ヶ崎~多田地区では遊泳者が良く目撃している。佐渡臨海実験所ならびに松ヶ崎中学校所蔵。

Family Chaetodontidae

14. *Chaetodontoplus septentrionalis* (TEMMINCK et SCHLEGEL) キンチャクダイ +S

産地：粟島

1961年2月4日粟島内浦浜に漂着した幼魚を柏葉丑之祐氏が得たもの。郵送の途中乾燥してしまい、査定には不都合な状態にあった。全長53.0, 体重42.0, 頭長14.0, 最大体高23.4mm; 眼窩径は4.5mmで両眼間隔に等しく、胸鰭長は10.0mmで腹鰭長にほぼ等しい; 吻

長 3.1, 尾柄高 6.0, 吻端より背鰭基部まで 15.0, 同じく肛門まで 22.4 mm; 前鰓蓋骨隅角に鋭く強い 1 棘があるが, 腹鰭腋部には鱗様の 1 突起がないので, キンチャクダイ亜科に属することが容易にわかる。鱗は小さく全体絨毛状を呈し, 側線は背びれ軟条の中央辺で終る。各垂直鰭は, ゆるい湾状で突出でない。下顎は突出し, 細歯が刷毛状に並んでいる。腹びれ棘の表面は粗雑。体色は成魚のそれと異なり, 地色は黒褐色で, 体側には 7 本の濃黒褐色縦帯が走る。しかし, 側線を囲むものや中央辺にある縦帯は明瞭で尾柄に達するが, 腹方ものは短かく不明瞭。背びれ, 臀びれ, 腹びれは濃褐色であるが, 背びれと臀びれの軟条部の縁辺は白色で, また尾びれは黄色である。頭部には背びれ棘部基底の前方より眼後部, 鰓蓋骨, 胸びれ基底を経て腹びれ基部の上方におよぶやや巾広い黄色帯があり, 吻端より頭頂にかけても剣状の黄色帯がある。

いままで日本海側では, 浜田沖や富山湾からも報告されておるので, 飛島にも分布する可能性が大いにある。著者所蔵。

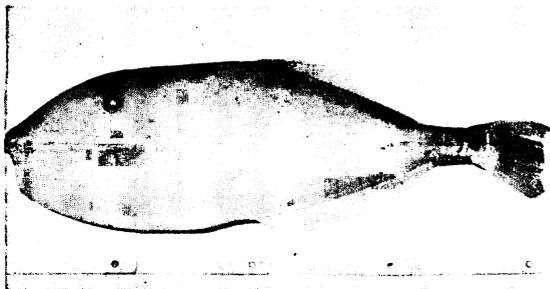


Fig. 5. *Aluterus monoceros* (LINNAEUS)
taken from Ryotsu Bay, Sado Island.

Family Aluteridae

15. *Aluterus monoceros* (LINNAEUS)

ウスバハギ +S

産地: 佐渡両津湾

今回査定した両津高等学校の標本は, いずれも採集年月日がはっきりしないが, 1959~1960 年の間にとれたものである。体長 455.0, 頭長 110.0, 体高 154.0 mm のもの 1 尾 (Fig. 5)。暖海性の種で, 日本海側では山陰・隠岐島沖から知られて

ており, 今回の標本は北限の記録となろう。両津高等学校所蔵。

Family Tetraodontidae

16. *Tetraodon* (= *Arothron*) *stellatus* BLOCH et SCHNEIDER モヨウフグ S

産地: 新潟県岩船郡山北村桑川海岸

新発田西高等学校山崎昇教諭が, 1959 年 10 月下旬に土地の漁士より得たもので, 全長 104.5 mm, 体長 90.0 mm の幼魚 1 尾。この標本について著者が行なった測定結果は, 西村三郎・山崎昇 (1961b) の共著の中に発表されているので, ここでは詳しく述べない。D. 11 (最前の 2 本は不分枝); A. 11 (最前の 1 本は不分枝); P. I+18; C. 9; 各側の鼻孔の開口は 1 個で, 2 枚の皮弁をもち, その大きさは前方のものが後方のそれより大きい, 差は著しくない。腹部に黒色斑が, また尾鰭に同心円線に並ぶ黒色円点がある。体側ならびに体背の黒色点は, 眼径より小さい, 口内は黒色。

暖海域に広く分布するものであるが, 日本海側からは報告されておらず, 新潟県北部への侵入は注目されてよい。山崎昇氏所蔵。

Family Cottidae

17. *Cottiusculus gonz* SCHMIDT オキヒメカジカ N

産地：佐渡松ヶ崎沖

1960～1961年の間にとれたもの2尾。ID. VIII, IID. 11; A. 11; P. 16; 全長57.6 mmのものの測定は、体長44.8, 頭長17.4, 最大体高9.6, 頭巾15.7, 胸鰭長13.0, 吻端より肛門まで, 22.6, 眼径5.3, 吻長4.0, 両眼隔1.5 mm。松ヶ崎中学校所蔵。

18. *Ocynectes maschalis* JORDAN et STARKS イダテンカジカ T

産地：佐渡松ヶ崎海岸

1960年9月と1961年8月に採捕された体長31.2～61.7 mmのもの8尾。D. IX, 14; A. 11; V. I, 2; P. 14 (下方の8条は肥大して肉質状); 側線上の有孔数34。

本種が新潟県北部に産することについては、西村・山崎 (1961a) によって紹介され、魚体の外部形質も記載されているので、ここでは述べない。著者の経験では、たとえば大佐渡のいわゆる外海府海岸に入る新潟大学臨海実験所所在地の達者付近では、沿岸岩礁帯のカジカ類として、*Pseudoblennius cottoides* アサヒアナハゼと *Furcina oshimae* キヌカジカが圧倒的に多く、イダテンカジカはみられず、一方小佐渡のいわゆる前浜海岸に入る松ヶ崎～多田付近ではアサヒアナハゼに次いでイダテンカジカが多く、キヌカジカはまだ発見されていない。松ヶ崎中学校所蔵。

Family Bothidae

19. *Tarphops oligolepis* (BLEEKER) アラメガレイ +S

産地：山形県加茂沖

1959年9月29日にビーム式底曳網によって、深度40 mのところからとられた体長33.0～70.0 mmのもの16尾。本種については、すでに大内・尾形 (1960) によって報告済みであるが、それ以前は日本海側から未記録。日本海区水産研究所蔵。

20. *Laeops lanceolata* FRANZ ヤリガレイ +S

産地：新潟県間瀬沖, 内野沖, 新潟沖, 藤塚沖

1959年7月12日および9月14日に同じくビーム式底曳網でとられたもので、体長14～82 mmのもの16尾。本種についても大内・尾形 (1960) が報告しているので略す。すでに日本海側では、兵庫県の津居山沖から渡辺・伊藤ら (1958) によって採集されている。日本海区水産研究所蔵。

訂 正

本誌2巻3号 (1952) 139頁, 1. *Eptatretus burgeri* (GIRARD) スタウナギを除き、かわって *Paramyxine atami* DEAN クロメクラウナギとする。

スタウナギは、新潟県立新潟高等学校に保存された田中茂穂博士同定の標本 (1954年4月4日の同校の火災により焼失) を元にして掲載したものである。しかし、その後新潟・山形両県からスタウナギは1尾も採捕されず、各所に保存されてある標本を当たってみると、すべてクロメクラウナギにほかならない。新潟付近に全くスタウナギが分布しないとも思われないが (たとえば舞鶴市ではスタウナギがとれるという……松原喜代松・落合明両博士談), 一応これを拙著から除き、クロメクラウナギを掲げる。新潟県のクロメクラウナギの分類学的検討は、岡田・黒沼・田中 (1948) の報文以来絶え、最近ようやく著者らによって (STRAHAN and HONMA, 1960, 1961) 再査されたわけである。

Résumé

Here the author has furthermore enumerated twenty unrecorded species of fishes with brief descriptions, which are to be newly added into a list of fishes of Niigata Prefecture and its adjacent waters of the Japan Sea side. The author has now checked 501 species of fishes from the waters around Niigata Prefecture.

Among the fishes listed herein, there are one small freshwater fish, *Biwia zezera*, three young of fishes, *Zenopsis nebulosa*, *Chaetodontoplus septentrionalis*, and *Tetraodon stellatus*, which were transported by warm Tsushima Current, and one rare bramid fish, *Taractes platycephalus*. It is interesting to find distribution of an apodal fish, *Muraenichthys gymnotus*, in the coast of Sado Island. Thirteen records of collection of the dealfish, *Trachipterus ishikawai*, are also given in this paper, which were obtained in the sea surface and coast of Niigata to Yamagata Prefectures during February 1960 to May 1961.

References

- ABE, T., 1961: Notes on some fishes of the subfamily *Braminae*, with the introduction of a new genus *Pseudotaractes*. Jap. J. Ichthyol., 8 (3/4), 92-99; 8 (5/6), 101-114.
- 本間義治, 1960: 佐渡・粟島近海におけるクロメクラウナギとカワヤツメ. 採と飼., 22 (2), 34-36.
- , 1960: クロメクラウナギ (円口類) の下垂体. 科学, 30 (4), 206-207.
- , 1961: 尾鰭の一部が欠けたクロメクラウナギその他. 採と飼., 23 (6), 182-183.
- JORDAN, D. S., and J. O. SNYDER, 1901: A review of the apodal fishes or eels of Japan, with descriptions of nineteen new species. Proc. U. S. Nat. Mus., 23(1239), 837-890.
- 蒲原稔治, 1940a: 魚網硬骨魚目, 的鯛族・破鰭族・溝背族. 日本動物分類, 15-2(4), 79 pp.
- , 1940b: 魚網硬骨魚目, 棘鰭亜目鱧型族鯖群. 同上, 15-2(5), 225 pp.
- LINDBERG, G. U., and M. LEGEZA, 1959: Fishes of the Japan Sea and adjacent waters including Okhotsk and Yellow Seas. Chap. I. Amphioxii, Petromyzones, Myxini, Elasmobranchii and Holocephali. 207 pp. Acad. Nauk, USSR.
- MATSUBARA, K., 1936: A new bramid fish found in Japan. Bull. Jap. Soc. Sci. Fish., 4(5), 297-300.
- MEAD, G. W., 1957: On the bramid fishes of the Gulf of Mexico. Zoologica, 42(2), 51-61.
- 西村三郎, 1960a: 1959-60年の冬新潟県の海岸に漂着した珍動物6題. 採と飼., 22(7), 213-216.
- , 1960b: 深海魚リュウグウノツカイ一佐渡海峡で捕獲一. 同誌, 22(8), 231-233.
- , 1960c: A record of *Regalecus russellii* (SHAW) from the Sado Straits in the Japan Sea. Ann. Rep. Japan Sea Reg. Fish. Res. Lab., (6), 58-68.
- NISHIMURA, S., 1962: Recent increase in the occurrence of the deal-fish in adjacent waters to Japan. Rep. Jap. Sea Reg. Fish. Res. Lab., (10), 51-58.
- 西村三郎・水沢六郎, 1962: 1960-61年度新潟県沿岸で捕獲された外来動物の記録. 採と飼, 24(3), 32-35.
- 西村三郎・山崎昇, 1961a: イダテナカジカ新潟県で採集. 同誌, 23(7), 205-206.
- ・———, 1961b: 新潟県で採集されたモヨウフグの幼魚. 同誌, 23(1), 324-325.
- 大内明・尾形哲男, 1960: 北部日本海底曳網漁区の動物分布に関する研究. III. 魚類. 日水研年報, (6), 183-189.
- STRAHAN, R. and Y. HONMA, 1960: Notes on *Paramyxine atami* DEAN (Fam. Myxinidae) and its fishery in Sado Strait, Sea of Japan. Hong Kong Univ. Fish. J., (3), 27-35.
- and ———, 1961: Variation in *Paramyxine*, with a redescription of *P. atami* DEAN and *P. springeri* BIGELOW and SCHROEDER. Bull. Mus. Comp. Zool. (Harvard Coll.), 125(11), 323-342.